

特集にあたって

今月号では「急性中毒」を特集しました。医薬品中毒では過量内服が多くを占め、背景を含めて全人的な診療が要求されますが、医療現場では精神力を要する仕事であることもしばしばです。急性中毒のなかには過去数々の事件に関係するもの、社会問題化したものなど、生活と関わりのあるものも少なくありません。急性中毒は救急専従医のみならず、医療職にある方すべてが関係する可能性がある傷病といえるでしょう。

各執筆者の先生方には急性中毒のうち、押さえておくべき標準的な診療のほかにも、いくつかのトピックスを取り上げ、また社会的な対応を含めた項目をお願いしました。急性中毒という傷病の特性上、必ずしもエビデンスに裏打ちされたものばかりでないなかで、患者の予後向上のためになんとか知恵を絞った新しい治療法も効果が確認されつつある、そのようなものも記載していただきました。また、分析についても留意すべき点をうまくまとめていただきました。社会的な対応については、さまざまな状況や地域システムに差があるなか、一遍通りの解答、というのは到底ないわけですが、さまざまな角度から述べていただきました。多職種連携においては、今や薬剤師の能力を活用しない手はありません。

本特集では、このような「知りたい点」「役立つ話題」ばかりを取り上げました。急性中毒診療には他の一般診療とは若干異なる専門性での、さまざまな知識が要求されます。本特集が読者のみなさまの急性中毒診療の一助になるようでしたら幸甚です。